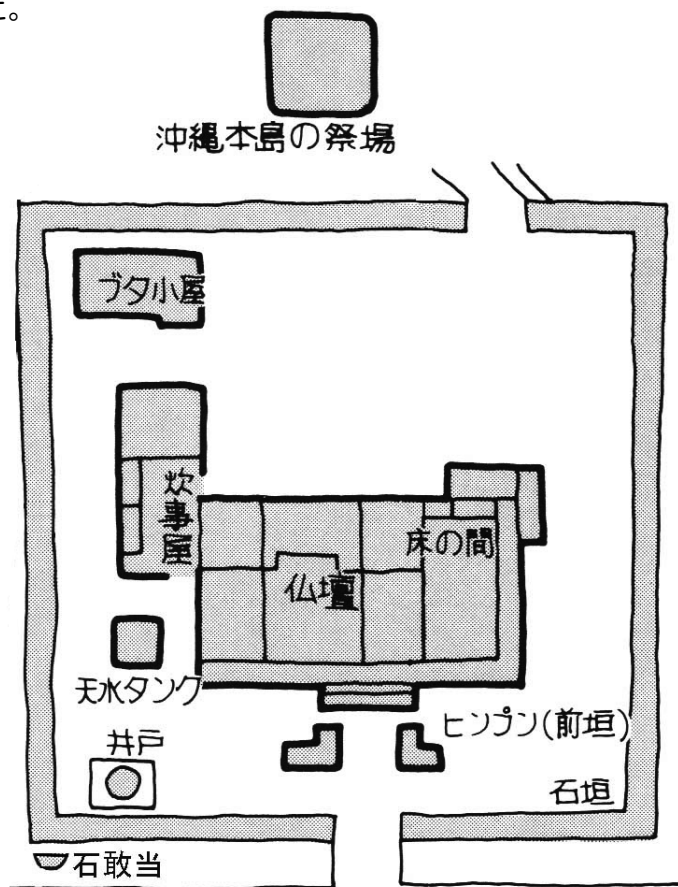


おきなわけん いしがきじま

## 沖縄県 石垣島の家

おきなわほんとう 沖縄本島よりもさらに南にあるなんせいしょとう 南西諸島は、あねったい 亜熱帯の島じまからなります。そのひとつである石垣島に、今から 140 年ほど前の 1871 年ごろ、りゅうきゅうこく 琉球国時代のしぞく 土族の住まいとして建てられた家をいちく 移築しました。



さいじょう  
沖縄県 沖縄本島の祭場

アサギと呼ばれる さんらくきやうどう 村落共同 の祭場。毎年 きゅうれき 旧暦 の7月には ほうさく はんえい 豊作や繁栄をもたらすニレー神を迎える かいじんさい 海人祭が、女性たちだけで もよお 催されます。

## きこう 気候と住まい：台風とともに暮らす

毎年 7 月から 10 月までに何度も台風におそわれる石垣島<sup>いしがきじま</sup>の家には、いくつかの工夫がこらされています。その暴風対策<sup>ぼうふう</sup>の工夫を紹介します。



- ① 豊富<sup>ほうふ</sup>に採れるサンゴ石で石垣を高く積みあげる。  
風が直接、家に吹きつけないようにという工夫です。

- ② 庭に防風林<sup>ぼうふうりん</sup>を植える。  
同じく、家に吹きつける風を少しでも弱めるための工夫です。

- ③ 屋根瓦<sup>やねがわら</sup>をしっくい<sup>かた</sup>で固める。  
屋根が風で吹き飛ばされないように“重し”の役目をもつ屋根瓦、この石垣島の家では平瓦<sup>ひらがわら</sup>（1 枚 1.3kg）と丸瓦<sup>まるがわら</sup>（1 枚 1.9kg）を組み合わせ、およそ 1 万 7 千枚、25t もの瓦を使っています。さらに、瓦をしっくい<sup>かた</sup>で塗り固めて、おさえています。

- ④ 母屋の柱<sup>おもや</sup>をふやし、軒<sup>のき</sup>を低くする。  
「石垣島の家」と「山形<sup>がっさんさんろく</sup> 月山 山麓の家」とはおおよそ同じ面積ですが、石垣島を家の柱は 102 本、山形の家柱は 74 本とかなり違います。柱の数が多いのは、重い屋根をしっかりと支えるためです。軒下<sup>のきした</sup>の高さは石垣島の家が 270 cm で、山形の家は 430 cm もあります。軒が低いことで、風は家の壁ではなく屋根の上を吹き飛んでいきます。

台風による被害を抑えるために、石垣島の人たちはいろいろな工夫をしてきましたが、まったく台風が来なくても、石垣島の人たちは困ってしまいます。この家の元の持ち主<sup>ぬし</sup>は、「井戸水は塩分があって飲めないからね」と言い、1953 年に水道が引かれるまで、屋根にふった雨水<sup>てんすい</sup>を天水タンクにためて飲料水に用いていた苦勞を語ってくれました。台風は大量の真水<sup>まみず</sup>をもたらしてくれる天からの恵みでもあるのです。